



# DESIGN GRADUATION WORKS

2017

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2017



この「作品集」は、「デザイン情報コース卒業研究発表会」、「卒業研究発表会研究要旨集」、「卒業展」と、広く一般の方々に公表し、ご批判を仰いでまいりました、会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース卒業研究ゼミナールの成果を示す、今年度最後のものです。「作品集」の発行も今年で13回目を迎えました。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、地域振興、復興支援、製品デザインと様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。

今年も具体的な地域の問題をベースとしたテーマが多く見られました。地域の活性化ということでは「湊地区PRのためのWEBコンテンツ」「奥会津・只見線沿線の活性化」「コミュニティシネマが広げる環」などが地域の方々の協力をいただきながら進められ結実しております。その他の作品も各分野で学んできたことの集大成として見応えのあるものです。

学生諸君にとっては、学生時代の創作への熱意と、活力に満ちた日々の証として、知性と感性を傾け、創造への情熱を持って過ごした時期です。その中で創造された作品は、よき思い出になるものと期待しております。

卒業する学生諸君には、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげていってほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。この作品集は広く学外にも配布してご高覧に供します。忌憚のないご意見、ご批判を賜れば幸甚に存じます。

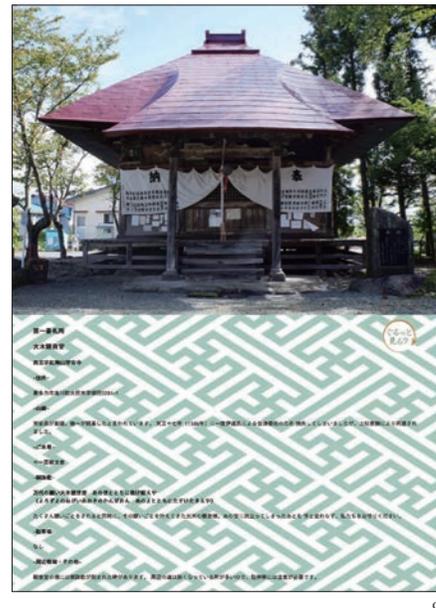
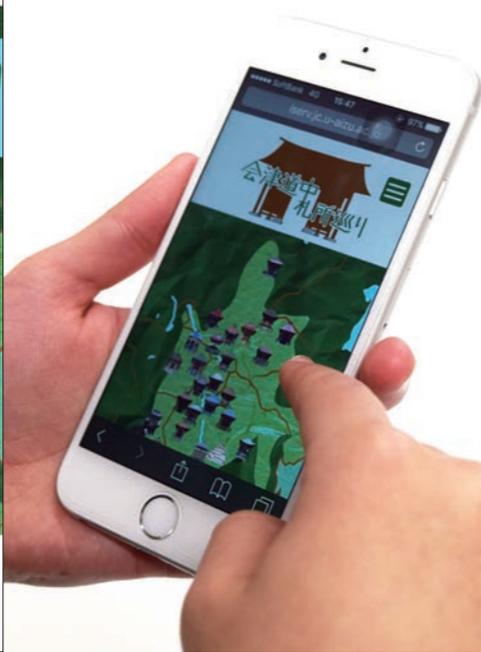
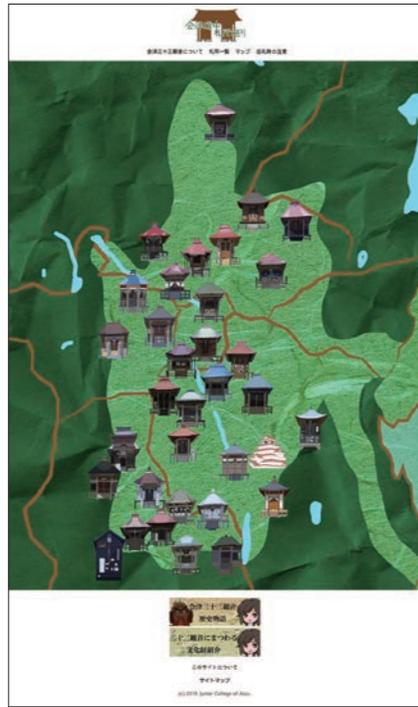
2017年3月  
会津大学短期大学部 産業情報学科  
学科長 石光 真

<p>4 会津三十三観音に関するWEBサイトの提案 伊藤 聡美 山内 かえ</p> <p>5 湊地区PRのためのWEBコンテンツ 竹谷 汐里 向中野 葉子 矢吹 実珠</p> <p>6 認定こども園の施設構成と空間デザインの調査研究 異なる年代のこどもたちのための空間デザイン提案 池田 結</p> <p>7 糸魚川市筒石の漁村集落の研究 集落形成の研究とリノベーションのデザイン提案 加藤 佳菜</p> <p>8 コミュニティシネマが広げる環 会津美里町高田地区商店街の軌跡とそこに眠る劇場の再活用提案 小林 純</p> <p>9 認知症患者のためのグループホームデザイン 認知症を和らげる、進行を遅らせる住まい 晴山 英依</p> <p>10 高田商店街お茶飲み発信プロジェクト 商店街でのお茶飲みを通じた交流・地域活性化の提案 広田 亜依</p>	<p>11 奥会津・只見線沿線の活性化 インパウンドの促進 上野 真陽 菊地 美里 佐藤 あかね 渡部 友菜</p> <p>12 玉嶋屋の包装デザインの提案 阿子島 望実</p> <p>13 会津かるた 聴覚・視覚・触覚で伝える会津の魅力 小松 康貴</p> <p>14 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館の新しいVI提案 佐藤 優花</p> <p>15 会津三十三観音・御詠歌の視覚的伝達 鳥里 愛生</p> <p>16 自然の大切さを伝えるポスター カラージュ技法による表現 安田 咲絵</p> <p>17 漆器と行事食 日本の食を漆器とともに考える 大森 麻衣</p>	<p>18 新たな漆芸技法の提案 切り絵を用いた装飾について 姫卯木切絵文料紙箱 佐藤 暁</p> <p>19 子供の想像力を豊かにする玩具 子供のための知育玩具の提案 橋本 彩夏</p> <p>20 かわいいと漆 日本のかわいい文化と漆 渡部 夢華</p> <p>21 使い捨てをなくすための製品 家庭内のごみを抑制する製品の提案 荒家 舞</p> <p>22 繊維ごみをごみにしない 家庭から出る衣料繊維ごみの再活用の提案 加藤 優</p> <p>23 水蓄熱による暖房補助器具 小又 桃子</p> <p>24 子供のコミュニケーション力向上を図るおもちゃの提案 佐藤 拓也</p> <p>25 ゼミ紹介</p>
--	--	--

## 会津三十三観音に関するWEBサイトの提案

伊藤 聡美 山内 かえ

2016年、日本遺産に認定された「会津三十三観音」に関するWEBサイトは多く存在している。しかし、取り上げられている内容に差があることがわかった。私たちは会津三十三観音について調査を行い、そのコンテンツをWEB上で公開することにした。本研究の目的は会津三十三観音に興味を持ってもらうだけでなく、仏都会津と呼ばれる会津の歴史的な価値や魅力を知ってもらうことである。そして、WEBサイト「会津道中札所巡り」を制作した。イラストを多く使用することで親しみやすいWEBサイトにしている。現地の情報を取得しやすいため、各札所の360°画像を撮影し、札所周辺の様子が閲覧できるページを制作した。会津歴史物語では会津三十三観音の歴史、札所が所有している文化財をイラスト・スライド形式で紹介し、大人から子どもまで見やすいものとなっている。



a. 会津道中札所巡りTOP b. サイト閲覧時の様子(スマートフォン) c. 第一番札所紹介ページ d. 札所アイコン一覧

[技法・サイズ] レスポンシブWEBデザイン

PC: 約1024×1790pixel タブレット: 約768×1465pixel スマートフォン: 約360×900pixel (トップページの場合)

## 湊地区PRのためのWEBコンテンツ

竹谷 汐里 向中野 葉子 矢吹 実珠

会津若松市湊地区の魅力地元の方に再確認してもらい、湊地区を広報するためのコンテンツを制作した。今回のプロジェクトとして外部へ向けより多くの人に情報を発信することや、湊地区の方がコンテンツ作成に関わることによって地域活性化に役立てることを目的とした。制作したコンテンツはWEBサイト、プロモーションビデオ、CMである。WEBサイトは、内部での情報の共有ができるのに加え、外部への情報伝達にもなるコンテンツとなっている。プロモーションビデオのタイトルは「ふるさと～帰ってきつせえ、湊町～」となり、湊地区の魅力を詰め込んだ。地元を離れてしまった人たちにその魅力を再認識してもらい、また気軽に帰ってきたくなるようなものを目指した。また、CMは、15秒という短い時間の中でも魅力を理解できるような内容を目指した。



a. プロモーションビデオ撮影時の様子 b. CMのワンシーン c. プロモーションビデオのワンシーン d. WEBサイトトップページデザイン

[素材・サイズ] WEBサイト: オリジナル画像、イラスト プロモーションビデオ、CM: 湊地区で撮影したもの  
WEBサイト: 1000×2100pixel プロモーションビデオ、CM: 1920×1080pixel

## 認定こども園の施設構成と 空間デザインの調査研究

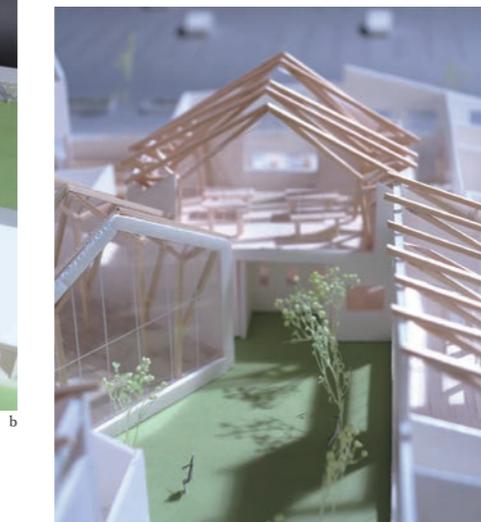
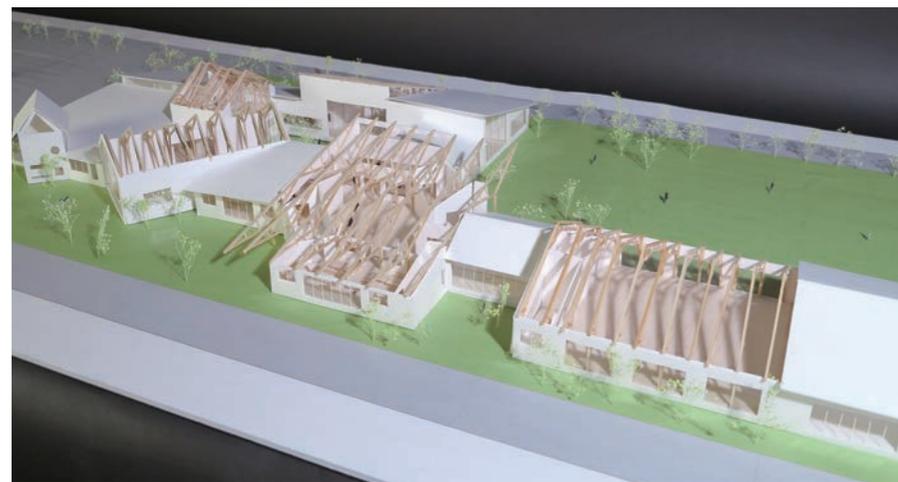
異なる年代のこどもたちのための空間デザイン提案

池田 結

認定こども園は平成18年から内閣府により全国に設置された施設で、幼稚園と保育園の要素が併合したことで、一見便利で利用しやすくなったように考えられている。しかしこれにより保育者の中には保育、教育、どちらを主軸に置き、こどもたちと接するべきなのか悩んだという声も挙がった。これらを踏まえ、認定こども園が機能、運営方法を考えた施設となっているか分析し、保護者、保育者が利用しやすく、こどもたちが安全に、各年代にあった活動ができるような認定こども園の施設内外のデザイン提案を行った。提案を表現するにあたり模型を作成した。屋根が木軸になっている部分は人が集まる場所として象徴的にした。またコンセプトとしては0～2、3～5歳児のそれぞれにあった活動空間の確保と、保護者、職員の無駄のない動線を意識しデザインした。



a



c

a. 5歳児クラスの様子 b. 南側からみた建物全体 c. 互いの存在を認識するための中庭

[素材・サイズ] スチレンボード、パルサ材、2mm角材、塩ビ板  
79×215×10.5cm

## 糸魚川市筒石の漁村集落の研究

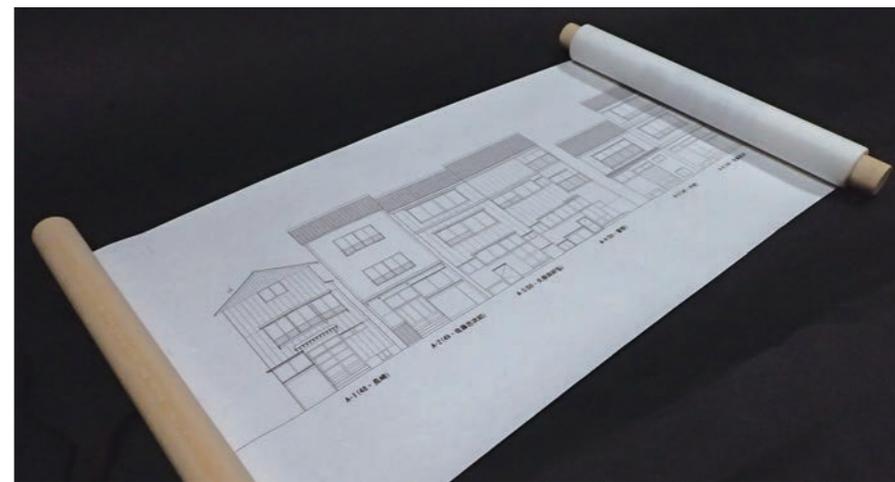
集落形成の研究とリノベーションのデザイン提案

加藤 佳菜

新潟県糸魚川市にある漁村集落の筒石。間口が狭く、奥行の長い木造3階建ての住宅が密集しており、町並みは迷路のようである。そのような特徴的な筒石だが、認知度は非常に低く、同じ町の人には筒石が特徴的な地域であるという認識がない。さらに筒石では現在空き家が増え、過疎化が進んでいる。もし、筒石の特徴を町の外に発信することが出来れば、町づくり等で活用しようとする人も出てくるだろう。そのためには、まずは発信者が自分たちの町のことを理解する必要がある。本研究では、文献調査やヒアリングで筒石の集落の形成を解明した。また、実測調査等を行い、特徴的な景観と住宅を後世に残していくための町並み図面の作成と、筒石の住宅をリノベーションし地域外の人に筒石の特徴等を認識してもらうための施設提案を行った。



a



b



c

a. 模型断面 b. 開いた巻物 c. 上から見た模型

[素材・サイズ] 模型：木、紙、スチレンボード 30×57×47cm  
巻物：木、紙 38×472cm

## コミュニティシネマが広げる環

会津美里町高田地区商店街の軌跡とそこに眠る劇場の再活用提案

小林 純

会津地域には、会津東宝劇場の閉館を最後に、劇場がひとつもない状況である。会津美里町高田地区にもかつては2つの劇場があり、大勢の観客を魅了していたが、現在は空き店舗と化している。本研究では、商店街の今昔をピックアップした映画を制作し、50年近く閉ざされた劇場での映画上映会を企画した。映画「Heart 新富座と、あの頃」は、商店街を中心に多くの方々にインタビューを重ね、昭和40年代の商店街と劇場の記憶を掘り起こした。劇場は観客席が撤去されていたためベンチを製作、上映後は商店街へ寄付することで、まちの景観づくりとしての役割も担った。上映会当日には50名以上の来場者が集った。作品鑑賞によって強い一体感を感じてもらい、人と人を繋ぐコミュニティデザインと、商店街の今後を考えてもらう機会となった。



a



b



d

a. 制作したベンチを並べた会場の様子 b. 劇場の持ち主へのインタビューの様子 c. 上映会当日の新富座外観 d. 上映会の様子

[素材・サイズ] ベンチ: 素材 杉材(国産) 36×150×36cm

映像作品: 高田町インタビュー動画、音楽・DOVA syndrome「Geo Grace」36分22秒

## 認知症患者のためのグループホームデザイン

認知症を和らげる、進行を遅らせる住まい

晴山 英依

多くのグループホームは、個別の入居者に適したデザインがされていない。グループホームとは、認知症の高齢者が少人数で共同生活を送る施設である。認知障害がある人は、既存の長期ケアの不適切な状況によって悪影響を受けやすい。よって、本研究は、認知症の症状を和らげる、遅らせることのできるグループホームのデザイン提案を行う。ヒアリング、文献調査を行い、認知症の症状を緩和できるデザインを考察した。日光、木の香り、回遊できるデザインを中心に提案を行った。日光を浴びることで、生体リズムを整え、夜の施設内の回遊を減らすことができる。回遊できるデザインでは、抑制を行わない、認知症の症状に適した施設構成を考えた。居室の周りには小さなコミュニティスペースを設け、コミュニケーションをとりやすいようにした。



a



b



c

a. 施設全体 b. 中庭 c. リビング

[素材・サイズ] プラスチック板、スチレンボード、かすみ草

59.4×84.1×14.0cm

## 高田商店街お茶飲み発信プロジェクト

商店街でのお茶飲みを通じた交流・地域活性化の提案

広田 亜依

会津美里町高田地区にある高田商店街は年々利用する人が少なくなっている。それは地域の過疎化や商店街全体の高齢化により、扱う商品が時代のニーズに合わず、客足が大規模店舗へ流れている等の理由による。しかし、ここには「お茶飲み」という習慣がある。お茶飲みの際に使われる机や椅子をスタイルとして確立することで、商店街が統一感を持ち、商店街全体のコミュニティも深まり、外部の人との繋がりもできるのではないかと考えた。本研究では、町民、外部の人々と商店街とのコミュニティづくりのきっかけになることを目的として、お茶飲み机・スツール・油絵展示壁・お茶飲み看板・エレベーションマップの提案、制作を行った。これらを複数の店舗へ置くことで、商店街全体の繋がりと利用者との関係をより深めることができたのではないかと考える。



a



b



c

a. 机とスツール (3店舗分制作) b. 油絵を展示するための展示壁 c. 制作物を納品した際の様子

[素材・サイズ] 机: スギ材 60×60×75cm 72×72×75cm 60×90×75cm  
展示壁: スギ材、丁番、ビス 200×99×7cm (2枚合わせた全長200×198×7cm)

## 奥会津・只見線沿線の活性化

インバウンドの促進

上野 真陽 菊地 美里 佐藤 あかね 渡部 友菜

奥会津地域は、シンボルである只見線をはじめ、豊かな自然、名所の数々など魅力ある観光資源を充分秘めている一方で、若者の流出や過疎化など、社会的な問題を抱えている。本研究では、これまで当該地域では取り組む機会がなかった新たなアプローチで奥会津・只見線沿線の活性化を目指すことにした。これまで学んできたグラフィックデザインの知識を活かし、遠方からの旅行者に奥会津への興味を持って頂くための媒体としてポスターを制作し、奥会津の思い出を持ち帰ってもらうためにノベルティを制作した。また、SNSに写真を載せて情報の拡散を促すことを狙い、若い女性をターゲットにパンフレットを制作した。その結果、「YOUNG JAPAN ACTION 浅田真央×住友生命」において他大学との合同研究「奥会津の活性化プロジェクト」が奨励賞を受賞した。



a



b

c

- a. 中吊り広告夏版
- b. 風呂敷ハンカチ
- c. 風呂敷ハンカチの活用法
- d. パンフレットと付箋

[素材・サイズ]  
紙・布  
中吊り広告: 36.4×103cm  
付箋: 7.5×2.5cm  
風呂敷: 30×30cm  
パッケージ: 8.5×8.5×10.5cm  
パンフレット: 25.7×18.2cm



d

## 玉嶋屋の包装デザインの提案

阿子島 望実

福島県二本松市にある玉嶋屋は玉羊羹を開発した江戸時代から続く和菓子屋である。近年では和菓子には珍しいハートの羊羹を発売し、若年層など新しい客層にも玉羊羹の魅力を伝える商品開発を行っている。しかし「材料に費用をかけたい」という思いが強く、コスト削減を重視した包装であった。そこで本研究では店舗、商品の魅力がより伝わるグラフィックツールの制作を目的とした。玉羊羹のラベルは「玉羊羹」の文字に茄子紺という伝統色を継いでおり、ハートや桃の玉羊羹では幅広い客層にも受け入れてもらえるような色やモチーフを使用している。また全商品に共通して使うことのできる包装紙、紙袋、商品パンフレット等は玉嶋屋の象徴である玉羊羹を統一のモチーフにした。どの客層にも対応できるデザインを意識し制作を行うことができた。



a



b

a. 玉羊羹パッケージ b. パンフレット c. 包装紙と紙袋

[素材・サイズ] 紙 玉羊羹：(8個)18×10×4.5cm (15個)22.5×14×4.3cm ハートの羊羹・桃ようかん：23.5×6.2×4.5cm  
パンフレット：21×88.8cm 包装紙：53.5×75.5cm 紙袋：22×24×11cm



c

## 会津かるた

聴覚・視覚・触覚で伝える会津の魅力

小松 康貴

若松城・伊佐須美神社・大内宿の、会津地域を代表する三つの名所の歴史や文化を伝えるツールとして、またここに住む子供達ももっと会津に親しみを持てるよう「会津かるた」を制作した。さらに、長い間家族で使ってもらえるように、未来に受け継がれていくようなデザインにした。「会津かるた」は、聴覚・視覚・触覚を重視して制作し、その中でも特に、視覚と触覚に焦点を当て、会津の伝統的工芸品である会津木綿を取り入れた。聴覚は読み手の声。視覚はかるたの絵札。絵札のデザイン全てに会津木綿の柄を取り入れることで、会津木綿の独特で温かみのある表現とした。そして触覚は絵札の裏面を包みこんだ会津木綿。木綿の肌触りによって、会津を体感することができる。これらの三つの感覚を活かすことにより、会津らしさを前面に出した作品にした。



a



b

a. 会津かるた全種(手前から伊佐須美神社、若松城、大内宿) b. 遊ぶ様子 c. 伊佐須美神社の絵札と読札

[素材・サイズ] 会津木綿、紙  
8×7cm



c

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館の新しいVI提案

佐藤 優花

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館（以下カワセミ水族館）は、地域に密着した水族館として幅広い層に人気を博す施設であるが、カワセミが展示されていないにも関わらずその名が付くことで各広報物が館内のイメージと合致しないことが、来館者の中で混乱を招いている。これらの問題を改善するため、本研究では、カワセミ水族館の新たなVI提案を行った。カワセミ水族館が行う保護活動と自然調査に基づき、両方の環境を護ること、互いの環境が支え合うことを示す「地上と水中の生物の共生」を共通テーマとし、それらの意図を組み込んだ各ツールの制作を行った。そしてカワセミ水族館の持つ独自の魅力と親しみやすさを視覚的に取り入れた広報物を制作し、的確な情報伝達を行うだけでなく、施設としてさらに人々に親しまれるようなVI提案を目指した。



a



aquamarine  
inawashiro  
kingfishers aquarium

b

a. 館内ツール（パンフレット、パスポート、名刺、チケット） b. ログマーク

[素材・サイズ] 紙、プラスチック

パンフレット：21×29.7cm パスポート：5.5×8.86cm 名刺：5.5×9.1cm チケット：5.4×11.9cm

会津三十三観音・御詠歌の視覚的伝達

鳥里 愛生

会津三十三観音には札所ごとに御詠歌が存在し、巡礼の際や、地域の女性達が観音講として集まり、唱えることが慣わしになっている。しかし、今日では継承者の高齢化に伴い御詠歌を唱える人、御詠歌の意味を知る人が少なくなっていることがわかった。そこで、本研究では御詠歌の意味を後生へ繋げたいと考え、御詠歌の意味をまとめたパンフレットを制作した。文字で書かれた御詠歌を視覚的にわかりやすくするため、仏教で縁を表す“丸”と文字で構成し、五色幕の“五色”で配色した。そして、信仰心や自然のぬくもりを水彩で表現することで、仏教との深い関わりを感じられるようにした。パンフレットは蛇腹折りにしているため、広げてポスターとしても掲示することができる。この媒体を活用し、会津三十三観音巡りがより充実することを目指し制作した。



a



b

a. 蛇腹折りを広げた状態（表面） b. パンフレット 11種類 c. パンフレットの表面と裏面

[素材・サイズ] 紙 折った状態：29.7×21cm

広げた状態：29.7×63cm



c

## 自然の大切さを伝えるポスター

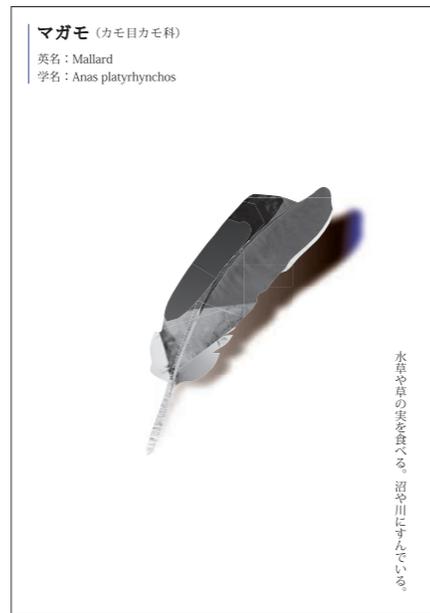
コラージュ技法による表現

安田 咲絵

会津地域にはいまだ木々や草花などの自然が多い。そこに動物たちが数多く生息しており、時には姿を見ることもできる。しかし自然環境の破壊はその地域でも進んできている。会津も決して例外とは言えないが、実際に個人が行える対策は限られている。最初の一步として、自然が貴重なものという意識を持つことが重要ではないだろうか。そこで、身近にある自然の魅力を再認識できるような媒体を作ろうと考えた。自然の中に棲む生き物の代表として、私たちの身近な存在である鳥を題材に、自然の大切さを伝えるポスターを制作した。これらのポスターは、鳥が棲む会津若松の自然の風景や草花の写真を素材とし、コラージュ技法で羽を表現したものだ。写真をモノクロにすることで、それぞれの鳥の羽の模様を引き立たせ、より再現性を高めた。

- a. カワウ
- b. アカゲラ
- c. キレンジャク
- d. マガモ

[素材・技法・サイズ]  
紙、写真  
コラージュ  
72.8×51.5cm  
全15枚



## 漆器と行事食

日本の食を漆器とともに考える

大森 麻衣

日本には季節ごとや月ごとに行事があり、そこで食す食事を行事食という。現在でも親しまれている行事食であるが、食の欧米化により親しむ機会が次第に減ってきている。無形文化遺産にも登録されている日本食に親しむ機会が減っていくのは非常にもったいないことである。また、食卓は大切な人たちと囲むだけでコミュニケーションの場になる。親しみのある行事と大切な人たちとのコミュニケーション、そこに漆器を組み合わせることで日本食に親しむきっかけ作りができるのではないかと考えた。そこで、四季の行事食を大切な人たちと囲める盛器を制作した。器自体がコミュニケーションのひとつになり、この器で大切な人たちと行事食を食べたという思い出ができてほしい。さらにそれが日本の食文化や伝統工芸への関心に少しでも繋がれば良いと考える。

- a. 季節ごとの器
- b. 夏の器

[素材・技法・サイズ]  
本体：乾漆  
高台：ホウ  
加飾：漆絵  
30×30×4.5cm



## 新たな漆芸技法の提案

切り絵を用いた装飾について 姫卯木切絵文料紙箱

佐藤 暁

会津短大に入学してから学んだ漆と高校時代から制作していた切り絵を組み合わせ、新たな漆芸表現として研究制作した作品である。変わり塗や装飾として活用できる技法の研究をテーマとし、切り絵をテクスチャとして使用した。和紙で制作した切り絵を漆で貼り、色漆や黒漆を塗り重ね、研ぎ出す。切り絵を貼り重ねながら色漆を塗ることで、研ぎ出した際に切り絵の輪郭がさまざまな色合いで表現される。切り絵を用いた装飾を施したのは紙や書簡を入れる料紙箱である。現代でも使いやすいようにA4サイズが入れられることを想定し、取り出しやすい寸法で制作した。切り絵のモチーフは漆芸に昔から使われている「花」と「蝶」にした。料紙箱は秘密の物、手紙を入れておくイメージがあるため、花言葉が「秘密」であるヒメウツギをモチーフとした。



a



b



c

a. 文様拡大図 b. 姫卯木切絵文料紙箱側面 c. 姫卯木切絵文料紙箱上面

[素材・技法・サイズ] 箱: ホオ、シナ合板 切り絵: 和紙  
研ぎ出し 33×24×5cm

## 子供の想像力を豊かにする玩具

子供のための知育玩具の提案

橋本 彩夏

現代の子供用玩具は年齢別に分けられているものが多く、幼稚園でも子供の年齢に合わせた玩具を与えて遊ばせている様子が多く見られる。そこで私は、どの年齢でも関係なく楽しんで遊べる玩具を制作した。玩具には特に遊び方を指定しておらず、遊んでいる子供たち自身が自由に遊び方を想像し、自分だけの遊びを創造することを目的としている。ピースの表面と側面で触り心地が違ったり、軽やかな音であったり、カラフルな色合いであったり、触覚・聴覚・視覚で玩具を楽しむことができる。ピースは軽い材質の“会津桐”で作られているので、体にぶつけても怪我の心配はない。収納ケースになっている家も使用して遊ぶことが可能なので、さらに遊び方が広がるはずである。遊んでいないときは綺麗に片付けてインテリアとして楽しむことができる。



a



b



c

a. 全種類 b. ピース c. 収納時の様子

[素材・サイズ] 漆、色漆 収納ケース: プナ 19×24×23cm  
ピース: 会津桐 7.5×7.5×1.1cm

## かわいいと漆

日本のかawaii文化と漆

渡部 夢華

日本には様々な文化があるが、近年世界から注目されているものにカワイイの文化がある。日本人は、清少納言の枕草子にも書かれているように古くからその感性を持ち、現在でも身近なものである。日本のかわいらしさ、日本人の感性を知り、漆と結びつけることで今後の漆の展開につながるようなデザインを考えたいと思い研究を始めた。作品は筆箱とした。「枕草子から着想を得ているため昔とつながる要素を入れる」「筆箱は今も昔も身近なものである」「漆製品であっても違和感がない」という理由からである。かわいいに関する考察を深めるための調査を参考に、三つのデザインを考えた。それぞれのモチーフは毒キノコ、食品サンプルのスパゲッティとキャラクター、寿司となっており、漆粘土や樹脂粘土の活用、研ぎ出し技法等を用いて試行錯誤しながら完成に至った。



a



b

a. 開いた状態  
b. 毒キノコの箱

[素材・サイズ]

筆箱本体：ホオ

毒キノコの部分：発泡スチロール、紙粘土、漆粘土

食品サンプル風の部分：樹脂粘土

毒キノコモチーフの筆箱：8.3×24.3×10.5cm

食品サンプル風キャラクターの筆箱：8.3×24.3×15.5cm

寿司モチーフの筆箱：8.3×24.3×5.5cm

## 使い捨てをなくすための製品

家庭内のごみを抑制する製品の提案

荒家 舞

日本では、一家庭から年間1～2トンのごみが出て問題になっている。ごみを減らす方法のひとつにももの寿命を伸ばすことがある。長く使ってもらう為には愛着を持ってもらうことも大切な要素であると考えた。そこで愛着についての調査を行い、同じものでも状況によって変えていけるものが重要だとわかった。ごみの内容を見ると、包装紙や食品トレイなどの容器包装が多い傾向にあり、容器包装の多くは過大包装され、そのほとんどがごみとして捨てられている。このような状況の中、ごみ問題の解決には、その発生源である家庭での対策が必要と考える。これらのことから素材は、包装にも使用され長く使用できる木箱に着目し、棚や家具に利用できる木箱を製作し、組み合わせて自分好みの棚や家具にすることで、長く使用してもらい愛着が持てる製品を提案した。



a



b

a. ワイン箱と付属品 b. 木箱の組み合わせ c. 使用例

[素材・サイズ] シナベニヤ

39×12×13cm、19×19×15cm、10×19×14cm、9.5×20×7.5cm、11.4×11.2×11.6cm



c

## 繊維ごみをごみにしない

家庭から出る衣料繊維ごみの再活用の提案

加藤 優

繊維ごみをごみとせず、再利用、リサイクル率を高めるために、リユースやリユースしきれなかった衣料の再利用方法などについて研究・提案し、衣料繊維ごみを減少させることを目的とした活動や製作を行った。まず、不要衣料を約150着回収したところ、メンズ衣料が約50着、レディース衣料が約100着となった。その後、アンケートに回答していただければ無料で衣料を譲渡する不要衣料譲渡会にて回収した衣料を譲渡した。白、黒、グレー、ネイビーなど、落ち着いた雰囲気の色合いの衣料を中心に、回収したうちの約2割である約29着が引き取られていた。121着ほど残った衣料は、子供服や極端にサイズの大きい服、色彩の派手な服などが多い。素材としては、一般的な綿が使われているものが多いため、クッションなどをはじめとした日用雑貨としてリメイクした。



a



b

a. 同じスカートから作った製作物(ヘアバンド、スマートフォンケース) b. クッション・ぬいぐるみ c. スマートフォンケースの使用例

[素材・サイズ] 古着、フェルト、ボタン、平ゴム、ボンド、糸、型紙

ヘアバンド 52~54cm×3.7~5cm スマートフォンケース (左):12.6×6.1×1cm (右):12.7×6.3×1cm

クッション・ぬいぐるみ(写真左から):28×25×6cm、25.5×18.5×4.5cm、28×28×11cm、25×17×7.5cm



c

## 水蓄熱による暖房補助器具

小又 桃子

二酸化炭素は他の温室効果ガスよりも排出量が多いことから環境問題の原因の一つとも言われている。このことから、増加傾向にある家庭からの二酸化炭素削減を目的とし、消費電力の大きい暖房からの二酸化炭素排出量を抑える方法について研究した。エネルギー源は太陽とし、太陽エネルギーの集熱による水の温度変化、放熱による温度変化について実験を行い、製品をデザインした。実験は11月から1月にかけて、晴れた日の窓辺で、身近で実験のしやすいペットボトルを使用し温度計測を行った。結果、最高37度(+23度)まで温度が上昇し、伝導で人間を暖められる程度の温度を得ることができた。このことから、太陽エネルギーにより温められたペットボトルの水を椅子の中に入れ、その熱により椅子から温かさを感じることができる椅子型の暖房器具を製作した。



a



b



c

d

a. 庫内の様子 b. 使用する様子 c. 右斜め正面 d. 右斜め背面

[素材・サイズ] 洋桐、シナベニヤ、栓、ペットボトル  
29.8×40.8×41.9cm

## 子供のコミュニケーション力向上を図るおもちゃの提案

佐藤 拓也

近年子供たちのコミュニケーション力が低下している問題が挙げられている。他者へ思いやりがもてない子供や、敬語、挨拶といったマナーが身につけていない子供が増加しているのである。コミュニケーション力とは幼少時代に基盤を作るといわれるが、少子高齢化や生活環境の変化の影響により、子供たちが他人とかわる機会がどんどん減少しているのが現状である。そこで子供に身近な遊びという環境を通して他人とかわることに慣れてもらうため、子供を対象とした二人以上で楽しめる新しいおもちゃの提案に取り組んだ。ターゲットや既存製品の調査から、互いに指示を出し合って、協力して遊ぶゲーム性のあるおもちゃが効果的であると考え製作に取り組んだ。他者と情報や感情を共有することで、他者への意識をより高められるおもちゃを提案した。



a



b



c

a. おもちゃ全体 b. 2人で遊ぶ様子 c. おもちゃ内部の様子

[素材・サイズ] 木材、ダンボール  
60×60×60cm

## ゼミ紹介

2016年度卒業生がデザイン情報コースの  
6つのゼミを紹介します



## インターフェース | 横尾ゼミ |

インターフェースゼミはWEBサイトのデザインやサイトに載せるコンテンツを制作する技術を学ぶことができます。サイトデザインにはIllustrator、掲載する画像を加工する際にはPhotoshop、実際のサイト制作にはDreamweaverを使用しています。動画の編集も学ぶこともでき、WEBサイト制作を通して、さまざまな技術に触れることができます。自由度が高いゼミなので、WEB制作以外にも自分の興味を持ったこと、得意なことにも全力で取り組むことができます。WEB制作に興味のある方、幅広くデザインに関することを学びたい方にぴったりのゼミです。



## インテリア | 柴崎ゼミ |

インテリアゼミは、住宅、ギャラリー等の公共施設、地域プロジェクトなど建築を中心に空間デザインの考え方・手法、地域おこしのあり方などを学びます。卒業研究は基本的に個人研究であり、自らが動かなければ研究は始まりません。従ってインテリアゼミに入ると、打たれ強くなり、行動力も身につきます。課題の濃さに怖気づいてしまうときも多々ありますが、それを乗り越えられるのがインテリアゼミなのです。卒業研究では皆、特に頭を悩ませました。そんなとき、ゼミ生にかけた柴崎先生の一言...「課題を越えた、さらにその先を提案して下さい」



## グラフィック | 高橋ゼミ |

グラフィック分野では、広告・出版・印刷に関連する業界で将来活躍できる人材を目標としています。実習やゼミの授業では、ポスター、カレンダー、ポストカード、パッケージ、新聞広告などといったグラフィック作品を実際につくりながら学んでいます。高橋ゼミは特に、外部とのコミュニケーションを取りながら、制作していくのが特徴です。実際にデザインした制作物を学外の方にも見ていただく機会があり、達成感を味わえます。グループ活動が多いため、互いに協力し合い、協調性が高まるゼミです。



## グラフィック | 北本ゼミ |

北本ゼミは「視覚に訴える伝達表現」ができるデザイナーの育成を目指しています。まだ設立2年の初々しいゼミですが、お互いに切磋琢磨しあえるような雰囲気です。実習や卒研ゼミの授業ではポスター、ロゴなどの様々なグラフィック作品を制作します。積極的に意見を言い合える環境で、いろいろな考え方を身につけ創造性を豊かにします。先生の恐るべき完璧な指導のもと、ゼミ生は血と汗と涙を流しながら、忘れられない青春の1ページを刻むこととなります。そしてあなたはグラフィックデザインの真髄を見ることになるでしょう。



## クラフト | 井波ゼミ |

クラフトゼミは漆を専門に学ぶゼミです。箱、お椀、その他造形物など、形から加飾まで自分でデザインを考え、漆を用いて作品を仕上げていきます。初めは自分たちで木材を加工し2年間使う道具を作成することから始まります。徐々に基本的な知識を教えていただきながら漆に触れ、作品作りに取り掛かります。漆芸品は作品が出来上がるまでにいくつもの工程を必要とし、次の工程に移るまで時間がかかります。そのため根気のいる作業ですが、作品を作り上げていく楽しさ、作品が完成したときの達成感はクラフトゼミならではのものです。



## プロダクト | 時野谷ゼミ |

プロダクトってなんだか知っていますか？聞いたことがない人がほとんどかと思います。プロダクトとは簡単に言うと、私たちの普段何気なく使っている家電製品、事務用品、車などの生活に密着した大量生産されるありとあらゆる製品を指します。私たちプロダクトゼミはこの製品について企画から製造、伝達まで幅広く学んでいます。どうすれば使いやすいか、どうすれば興味を持ってもらえるか、さまざまな要素から新たな製品のデザインを考え提供することで、多くの人々の生活をより豊かにする、それこそがわれわれプロダクトゼミなのです。

卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2017

編集 | 北本 雅久 後庵野 かおり  
加藤 早織 板橋 芽衣子

デザイン | 北本 雅久

発行 | 会津大学短期大学部  
産業情報学科 デザイン情報コース  
福島県会津若松市一貫町大字八幡字門田1-1  
TEL 0242-37-2300(代) URL <http://www.jc.u-aizu.ac.jp/>

発行日 | 2017年3月18日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。



JUNIOR COLLEGE OF AIZU

